

山陽小野田市健康づくり推進協議会議事録

会議の種類	平成26年度第3回山陽小野田市健康づくり推進協議会		
日時	平成27年2月26日(木) 18:00~19:30		
場所	小野田保健センター		
出席者	小野田医師会	白澤宏幸	(会長)
	山陽小野田市社会福祉協議会	沖野浩	(副会長)
	小野田歯科医師会	多原康成	(委員)
	厚狭歯科医師会	嶋田修士	(委員)
	山陽小野田薬剤師会	福田雅子	(委員)
	山陽小野田市ふるさとづくり協議会	杉本保喜	(委員)
	山陽小野田市老人クラブ連合会	笹尾新太郎	(委員)
	山陽小野田市連合女性会	井上幸子	(委員)
	山陽小野田市小・中学校PTA連合会	石田康正	(委員)
	山陽小野田市母子保健推進協議会	吉田由美子	(委員)
	山陽小野田市食生活改善推進協議会	半矢幸子	(委員)
	山口県看護協会小野田支部	弘永加奈枝	(委員)
	山口県歯科衛生士会小野田支部	新藤悦子	(委員)
	一般公募	曾瀬護	(委員)
	一般公募	原田静江	(委員)
	(出席者数 15人)		
欠席者	厚狭郡医師会	中根比呂志	(委員)
	山陽小野田市自治会連合会	藤田正人	(委員)
	山口宇部農業協同組合	西村和典	(委員)
	山口県栄養士会宇部地域専門部会	河村典子	(委員)
	(欠席者数 4人)		
オブザーバ	山口県宇部健康福祉センター 健康増進課課長	酒井恵子	
事務局	健康福祉部長 河合久雄	健康増進課長 山根愛子	
	健康増進課課長補佐 木本順二	健康増進課課長補佐 河野静恵	
	成人保健係主査 石井尚子	健康企画係係長 大海弘美	
	健康企画係主事 竹森和貴		

1. あいさつ	健康福祉部長あいさつ
2. 新委員紹介	
3. 議 事	(1) 第5回健康フェスタについて (報告)
事 務 局	資料1 (第5回 SOS 健康フェスタについて (報告)) の説明
議 長	意見、質問等ないか。
委 員	高校生や大学生にボランティアを依頼することで、ボランティアで参加する高校生や大学生の友人達も健康フェスタに来てくれると思う。若者の来場者を増やすためにも、高校生や大学生へのボランティア依頼は継続してほしい。
事 務 局	平成27年度の健康フェスタは、合併10周年の記念開催となる。これまで以上の来場者が期待できるため、会場のスペースを有効活用することが必要。
議 長	来年度の会場は市民館を予定している。市民館全体を活用していきたい。また、高校生や大学生へのボランティア依頼も継続し、健康フェスタを若い人達が健康について考えるきっかけ作りの場所にしたい。
委 員	第5回健康フェスタも大変盛況だった。来場者増加に併せて様々な取り組みを実施してほしい。
事 務 局	他に意見、質問等ないか。
議 長	(意見、質問等なし)
事 務 局	(2) 第2次山陽小野田市食育推進計画の策定について
議 長	資料2 (山陽小野田市食育推進の年次計画) の説明
委 員	食育推進計画の2次計画策定が延期されたということだが、意見、質問等ないか。
事 務 局	現在、ねたろう食育博士は何名いるか。
委 員	246名である。
事 務 局	今後、学校給食はセンター方式に変わる。この影響で各学校の栄養士や調理師が減少し、生徒達が食育を受ける機会が少なくなるのではないかという懸念がある。対応策として、ねたろう食育博士と協力し、生徒達へ食育を実施するなど、事務局で具体的に考えていることはあるか。
事 務 局	現時点では、具体的な取り組みは考えていない。
委 員	食育に関する知識を持っている、ねたろう食育博士に生徒達の食育に協力していただくというのは大変良いことだと思う。来年度についてもぜひ、ねたろう食育博士養成講座を実施してほしい。
事 務 局	来年度のねたろう食育博士養成講座は、若い世代のねたろう博士養成を目標に取り組んでいく。
議 長	他に意見、質問等ないか。
委 員	(意見、質問等なし)

事務局 議長 委員	<p>(3) がん検診の受診状況について</p> <p>資料3 (がん検診の受診状況について)の説明</p> <p>意見、質問等ないか</p> <p>山口県のがん検診受診率は全国的に見ても低い。資料3の表(山陽小野田市におけるがん検診受診率とがん発見数(平成25年度))で本市のがん検診の受診状況を確認すると、胃がんの受診率は19.0%であり、検診対象者約22,000人のうち、約17,800人が未受診ということになる。また、約220人に1人の割合で胃がんが発見されることになり、大腸がんは約243人に1人、肺がんは約636人に1人、子宮がんは約717人に1人、乳がんは約103人に1人、前立腺がんは約62人に1人の割合になる。</p>
議長 委員	<p>子宮がん・乳がん検診の受診率が低いのはこれらの検診を受けることが恥ずかしいという気持ちが影響しているのではないか。</p> <p>自分自身は、かかりつけ医の勧めで、がん検診を受診し、前立腺がんを早期発見することができた。このことで、かかりつけ医を持つこと、がん検診の大切さを実感した。</p> <p>特に受診率が低い、乳がん・子宮がん検診について受診率を向上させる提案等ないか。</p>
議長 事務局 委員	<p>乳がん検診は外科であることや痛いというイメージがあり、受診しにくい。</p> <p>乳がん検診の受診率(過去2年間)は県内で最下位であるが、事務局として原因等を把握しているか。</p> <p>把握できていない。</p> <p>平成21年度から乳がん・子宮がんについては、無料クーポン券の交付を実施しているが、資料3のグラフ(市がん検診受診率の推移(H21~H25))を見ても効果が現れているとはいえない。対象となる人が集まる市の幼児健診等で無料クーポン券について情報提供を実施しているのか。</p>
事務局 委員	<p>幼児健診(1歳6ヶ月、3歳6ヶ月)においてお母様方へ乳がん・子宮がん検診、女性の健康診査についてチラシ等で紹介している。しかし、乳がん検診の対象が40歳以上の女性であるため、幼児健診に来られるお母様方は対象年齢外であることも多い。このため、事務局としては、小・中学生のお子様を持つお母様方に対して乳がん・子宮がん検診の啓発に取り組んで行きたいと考えており、小・中学校PTA連合会からご意見等をいただけるとありがたい。</p>
事務局	<p>小・中学校PTA連合会としてチラシの配布等で、がん検診受診率向上に協力することは可能である。</p> <p>山口県内で、がん検診受診率が高い市町はどのような取り組みをしているのか。</p> <p>今後、調査させていただく。</p>

委員	<p>宇部市、下関市は乳がん・子宮がん検診共に受診率が高い。何か特別な取り組みを実施しているのか。</p>
オブザーバ	<p>宇部市では、女性限定の集団健診の実施、山口県宇部健康福祉センターでは職域（職員の奥様も対象）を巻き込んで、がん検診を実施している。また、学校等でがん教育を行い、生徒達と保護者に対してがん検診の大切さを伝えている。</p>
議長	<p>受診率向上には積極的な受診勧奨が重要である。</p>
委員	<p>女性限定の健診は良いと思う。</p>
委員	<p>市民に対して、がんは他人事ではないという危機感を持たせることで受診率向上に繋がるのではないのか。</p>
委員	<p>がん検診の重要性は理解しているが、乳がん検診には痛いというイメージがある。このため、自分自身は、入浴時のセルフチェックのみで、乳がん検診は受診していない。</p>
議長	<p>以前、身近で30代の女性が、がん検診で乳がんを早期発見できたという事例があった。がん検診の重要性を実際に体験した方は、周囲に対してがん検診の大切さを伝えている。</p>
議長	<p>平成19年に胃がん検診に胃カメラの導入が始まった。これにより、進行がんの患者が減少した。これは、胃がん検診での早期発見が増加したと考えることができる。がん検診による早期発見の大切さを市民に伝えていきたい。</p>
	<p>他に意見、質問等ないか。 (意見、質問等なし)</p>
事務局	<p>(4) 平成27年度すこやか山陽小野田（保健事業）（案）について</p>
議長	<p>資料4（平成27年度保存版すこやか山陽小野田）の説明</p>
委員	<p>意見、質問等ないか</p>
委員	<p>4頁の予防接種で紹介されているヒブワクチンが導入される前までは、重いヒブ感染症である細菌性髄膜炎に毎年約600人が罹患していた。自分自身もヒブワクチンがどのようなものか今回調べるまで知らなかった。ヒブワクチンも含めた各予防接種の説明は市民にどのように実施しているのか。</p>
事務局	<p>市民から出生届を提出していただいた際に、予防接種の説明が記載された冊子を配布し、説明している。</p>
委員	<p>対象年齢外で接種した場合の実費額を記載した方が、対象年齢内での接種を促進できるのではないのか。</p>
事務局	<p>検討させていただく。</p>
委員	<p>11頁に、かたつむりで行こう会部会員（ボランティア）募集に関する問い合わせ先や申し込み先を記載してほしい。</p>
事務局	<p>記載させていただく。</p>
委員	<p>12頁の山陽小野田市急患診療所（内科）の対象が中学生以上になっているが、対象が拡大したのか。</p>

事務局 委員	<p>対象を高校生以上から中学生以上へ拡大した。 かかりつけ医を持つことが重要といわれるが、かかりつけ医を受診すべきかどうかの判断が難しい。</p>
議長	<p>まず、40代以上は、がん発症の可能性があるため、がん検診を受けていただき、60歳前後の方は検診で血圧や糖尿、コレステロールを検査し、異常があればかかりつけ医を受診していただきたい。ただし、検診で異常が無くても、何か身体に関して不安なこと等あれば、かかりつけ医に相談していただいて構わない。</p>
委員	<p>12頁に、まずはかかりつけ医を受診とあるが、かかりつけ医が無い人はどうすれば良いのか。</p>
議長	<p>大きな病院は手術等が必要な重篤な患者を受け入れるための医療機関である。比較的軽症の方が直接大きな病院を受診してしまうと、重症患者の治療が出来なくなる。このような状況を避けるために、比較的軽症の方は、まずはかかりつけ医に相談していただき、かかりつけ医が無い方は近くの診療所等を受診していただきたい。</p>
事務局 委員	<p>市民が救急医療体制の適正利用の意識を持つことが大切だと思う。</p>
事務局	<p>救急医療体制は1次救急、2次救急、3次救急の3段階に分かれている。12頁に記載されている「かかりつけ医」は1次救急（診療所や急患診療所等）を活用して欲しいという意味である。</p>
議長	<p>山陽小野田市急患診療所も1次救急の役割を担っているが、まだまだ認知度が低く、利用者が少ない。急患診療所の利用者を増加させていくことが救急医療体制を守ることに繋がるのでぜひ活用してほしい。</p>
	<p>他に意見、質問等ないか。 (意見、質問等なし)</p>
議長	<p>(5) その他 何か意見、質問等ないか。 (意見、質問等なし)</p>